

ねりま協働ラボ・未来チャレンジ部門

「それぞれの居場所」 届ける情報・繋がる練馬

令和7年度 事業成果報告

こどもまんなかネットねりま



目次

1. 団体紹介
2. 本事業における組織体制
3. 事業の目的・目標
4. 事業目標達成へのステップ
5. 3年間の当初事業計画
6. 1年目の事業計画
7. 取組1 官民参加のトークセッションの実施
8. 取組2 練馬区の職員による「こまねり登録団体」への取材
9. 1年目の成果
10. 1年目の課題・課題を踏まえたアクション
11. 3年間の事業計画【修正版】
12. 2年目以降のスケジュール
13. 今後の展望（4年目以降）

団体紹介

1 こどもまんなかネットねりま（通称：こまねり）

こまねりは、「子どもをまんなか」に、こどもも大人も、存在を誰にも否定されことなく過ごせるよう、**ねりまで活動する様々な団体が緩やかにつながり**、広く支援情報を伝えていこうという**ネットワーク**です。

現在、練馬区にある不登校・発達支援・こども食堂・学習等の支援を行っている**80団体**がこまねりに登録し、活動しています。

2 活動内容

交流会の実施（不定期・年2回程度・対面もしくはオンライン）

登録団体の情報発信（インスタ・HP・FB）

登録団体同士の情報共有（メール・オープンチャット）

3 普段の活動を通して見えてきた現状と課題

民間団体には小さな団体が多く、**行政との連携がうまくとれていない**

保護者や子どもたちを**必要な行政支援に繋ぐことができていない**

こども 若者も大人も つながる つながる 民間団体ネットワーク
こどもまんなかネットねりま

こまねり

「こどもをまんなか」に、子どもも大人も、存在を誰にも否定されことなく過ごせるよう、練馬区で活動するさまざまな団体（主に民間団体）が、緩やかにつながり、協力し、広く情報を伝えていこうというネットワークです。

こまねりのホームページ komaneri.com

練馬区内で「こどもまんなか」をキーワードにさまざまな活動をする団体を紹介します。活動内容や地域などで検索もできます。

思いやり遊びたい！
学校、行きたくない...
家と学校以外の居場所がほしい
おうち、辛い...
ゆっくり勉強につき合ってくれる人いないかな
なんとないかな？うまくいかない...
知らない状況の疑問もつながりたい

自分にあった居場所や活動を探してみよう！

プレパーク
不登校の居場所
居場所
学習支援
発達相談
親子の会

思いやり遊びたい！
思いやり遊びたい！
思いやり遊びたい！

こども食堂
イベント
体験活動

▼こまねりHP

大事にしていること

基本法 基本理念より

- すべてのこどもが大事に育てられ、生活が守られ、愛され、保護される権利が守られ、平等に教育を受けられること。
- すべてのこどもは、年齢や発達の種類に応じて、意思が尊重され、こどもの心とからだから出るまよいが保護されて考えられること。
- 子どもや若者として尊重され、喜びを感じられること。
- すべてのこどもは、年齢や発達の種類に応じて、意思が尊重され、こどもの心とからだから出るまよいが保護されて考えられること。
- 子どもや若者として尊重され、喜びを感じられること。
- すべてのこどもは、年齢や発達の種類に応じて、意思が尊重され、こどもの心とからだから出るまよいが保護されて考えられること。

できるだけ
いこう
毎月月に実施しました。

これら区内で活動を始めたいと思っている方

団体の立ち上げから、運営、広報などのご相談に乗っています。どんな活動をしていこうかお話を聞いて、一緒に考えます。お気軽にご相談ください。

練馬区社会福祉協議会
練馬ボランティア・地域福祉推進センター
練馬区東玉北1-14-8 練馬ビル5階
TEL: 03-3948-0208

こどもまんなかネットねりま
komaneri.com info@komaneri.com
練馬区社会福祉協議会 練馬ボランティア・地域福祉推進センター
〒201-8501 東京都練馬区東玉北1-14-8 練馬ビル5階
TEL: 03-3948-0208

このチラシは、東京練馬中央のネットワークの協力を得て制作しています。

本事業における組織体制

練馬区協働推進課 協働事業担当係

- ◆ 伊藤 政利
- ◆ 植嶋 然子
- ◆ 浅井 裕也
- ◆ 上原 初香



協働ラボチーム

☆ こまねり代表
長谷部 暢子
(石神井・小さなうち)

☆ こまねり副代表
山本 千夏
(どんぐり山プレーパーク)

☆ 江口 暁
(ねりま笑店街実行委員会・
ねりまキッズボランティア)

☆ 金 麻衣子 (そらいろのいえ)

☆ たてまつ 暁子 (ぼっとうよはくらボ)

◆ 佐藤 崇 (なゆたふらっと)

◆ 千屋 尚也 (NPO法人BOON)

◆ 村嶋 美茶子 (こねくとういず)

☆ : こまねり役員

こどもまんなかネットねりま登録団体 (約80団体)

- ◆ 登録団体の中で、本事業の目的に賛同し、運営に携わってくれる人たちを協働ラボの中核メンバーとし、協働ラボチームをつくりました。

事業の目的・目標

【目的】

こまねり登録団体と区の情報に合わせて、
支援を必要としている全ての子どもと保護者に情報を届ける。






【目標】

情報が届いた結果、子どもと保護者が、**誰に相談したらよいかわかるようになり**、練馬区、ボランティアセンター、こまねり登録団体等への相談件数が増えていくこと。

項目	内容	開始時点 (令和7年3月)	令和9年度末 (令和10年3月)
Webサイト閲覧数	WEBサイト PV数	2,000	5,000
登録団体数	こまねりに登録している団体の数	53	70
フォロワー数	Instagramのフォロワー数	707	1,500

事業目標達成へのステップ




ステップ1 官民のつながり作り

-  官民がお互いを知る場を作る
-  顔の見える関係性を築く
-  共通の目的や課題を共有する



官民が**交流する場**を設定する
→イベントの実施



ステップ2 官民両者の情報把握

-  官民の情報を集約する
-  各部署や団体の今を知る
-  保護者のニーズを把握する



官民・保護者の**現状を調査**する
→取材やアンケート調査の実施

ステップ3 確かな情報の発信

-  誰もが情報を手に取れる
= 保護者 + 支援者
-  手に取った情報が活用できる



情報媒体を作成・発信する
→行政と民間の支援情報を掲載

3年間の当初事業計画

1年目

- ◆ トークセッションの実施
- ◆ こまねり登録団体への取材

ステップ1 【官民のつながり作り】

こまねり登録団体と練馬区関係部署が**つながり**を作り、ともに同じ目的に向かって進む。

ステップ2 【官民両者の情報把握】

こまねり登録団体と練馬区関係部署のつながりにより、こどもと保護者に必要な、**支援情報を把握**する。

ステップ3 【確かな情報の発信】

こまねり登録団体と区の情報に合わせて、**途切れのない、確かな情報を届ける**。

2年目

- ◆ シンポジウムの開催

3年目

- ◆ パンフレットの作成・配布
(保護者・支援者への配布)

ステップ3 確かな情報の発信

ステップ2 官民両者の情報把握

ステップ1 官民のつながり作り

1年目の事業計画

取組 1 官民参加トークセッションの実施 + 記録映像の撮影

取組 2 練馬区の職員による「こまねり登録団体」への取材

令和7年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
【取組 1】 トークセッション	各所管課、こまねり登録団体との調整											
				不登校	学習支援	遊び	発達支援	子育て支援	居場所	子どもの未来		
【取組 2】 区職員による 取材	企画	こまねり登録団体への取材										

取組 1 官民参加トークセッションの実施①（イベント概要）

概要

- ◆ 年7回実施（7月～1月）
- ◆ 内容：各テーマに関して、お互いの課題を出し合い、協働できることを話し合う。

目的

- ◆ 官民が知り合い、顔の見える関係性を築くこと
- ◆ 課題を出し合い、共に考え、行動する視点を持つこと

【テーマ（全7回）】

不登校、学習支援、遊び、発達支援、子育て支援、居場所、子どもの未来

«トークセッション参加者»

- ▶ 登壇者（計6名）
 - ・こまねり登録団体（3名程度）
 - ・行政職員（3名程度）
- ▶ ファシリテーター（1名）
 - ・こまねり登録団体
- ▶ 傍聴者（目標数：延 350名）
 - ・こまねり登録団体
 - ・行政職員

«目指した場作り»

- ▶ お互いが本音で話し合える場作りを大切にしました。

その1 傍聴者は、行政とこまねり登録団体のみに**限定**！

その2 「グランドルール」を設定し、トークセッション冒頭で参加者全員と共有する。



トークセッションの様子▲

取組 1 官民参加トークセッションの実施①(トークセッション参加者)

	テーマ	登壇者		傍聴者数		合計
		こまねり登録団体	行政職員	団体	行政	
第1回	不登校	不登校支援団体 3名	練馬区学校教育支援センター職員 4名	31	25	56名
第2回	学習支援	学習支援団体 2名	練馬区立小学校教員 2名	28	26	54名
第3回	遊び	プレーパーク 3名	練馬区児童館館長 3名	35	24	59名
第4回	発達支援	発達支援団体 2名	練馬区立小学校教員他 3名	35	19	54名
第5回	子育て支援	子育て支援団体 3名	練馬区立小学校校長 1名 練馬区立保育園園長 1名 子ども家庭支援センター 1名	31	25	56名
第6回	居場所	居場所運営団体 3名	子育て支援課職員 2名 ねりま若者サポートステーション 1名 指導主事 1名	27	27	54名
第7回	子どもの未来	特別編：ワークショップ形式		24	16	40名

- ◆ グラドルールを設けるなど、場の安全性を伝えることで、登壇する行政の理解・協力を得られました。
- ◆ 協働推進課が庁内全体に呼び掛けをし、計50の部署が傍聴にきました。
- ◆ 官民共通の目的や課題を、この場の中で共有することができました。

延 408 名
達成!

取組 1 官民参加トークセッションの実施① (イベント結果一部抜粋)

第1回トークセッション (テーマ: 不登校)

【印象に残った発言】

- ◆ 【官民共通】 大切なのは、安心できる、自分に合った居場所を子どもが見つけれられる、選べること。
- ◆ 【官民共通】 チラシやネットで情報を発信しているが、必要な人に情報が届いていなかったり、情報が気づかれにくい状況がある。
- ◆ 【民間】 学校から発信してもらふことにより、不登校になる前から情報を知れるというのは、親も子どもも安心材料につながるのではないか。
- ◆ 【行政】 民間の居場所をもっと知りたい。小学生の時は民間の居場所に通っていて、中学校になってから行政の支援を受ける場合もある。

【こまねりの気づき】

- ◆ 大切なのは、子どもにとって安心できる居場所があるということ。子どもがそれを選べるということ。
- ◆ そのためには、官民が有機的に繋がり、対話ができる環境を整えることが必要と感じた。
- ◆ 官民共通して、「必要な人に必要な情報が届いていない」という意見が出た。関係性を作った上で、効率的な情報発信ルートを確立していくことが不可欠と感じた。

(官)教育支援センター×(民)不登校支援団体



取組 1 官民参加トークセッションの実施① (イベント結果一部抜粋)

第4回トークセッション (テーマ: 発達支援)

【印象に残った発言】

- ◆ 【官民共通】 その子に合った関わり、その子の特性を大切にしようという意識が必要。
- ◆ 【民間】 学校は敷居の高い場である。支援につながるために、様々な機関を訪ねなくてはならず、負担であった。**窓口が一つで伴走してくれる仕組みがあったらいい。**
- ◆ 【行政】 今回のトークセッションで実際に民間の居場所を運営する方と話し、知ることができたので安心して民間の支援を紹介できる。**人と人が知り合うことが大切だと思う。**
- ◆ 【行政】 この取組を通じて、**数年後には学校との距離がすごく近くなったと実感できると思う。** いずれ「官」「民」を区別しない時代が来るはずで、今日はその出発点になればと思う。

【こまねりの気づき】

- ◆ 子ども一人ひとりの特性を尊重した支援を確立するために、**官民が連携した地域づくりが重要**だということがわかった。
- ◆ そのためには、制度や官民の立場を超えて、**子どもを取り巻く地域の情報を知ることが大切**である。
- ◆ そして、信用性を担保した上で、**情報を必要とする人に伝えていける体制を整えていく**ことが求められている。

(官)小学校教員×(民)発達支援団体



取組 1 官民参加トークセッションの実施① (イベント結果一部抜粋)

【特別編】ワークショップ概要

- ◆ 最終回となる第7回では、過去に起きたことを振り返り、理想の未来を想像・デザインする「**フューチャー・デザイン**」という手法を用いて、**官民が一緒に**グループディスカッションを行った。
- ◆ ねりま協働ラボ2年目以降の展望を見据え、「理想の社会に向けて**実際に行動を起こしてい**くこと」を目指した。

【こまねりの気づき】

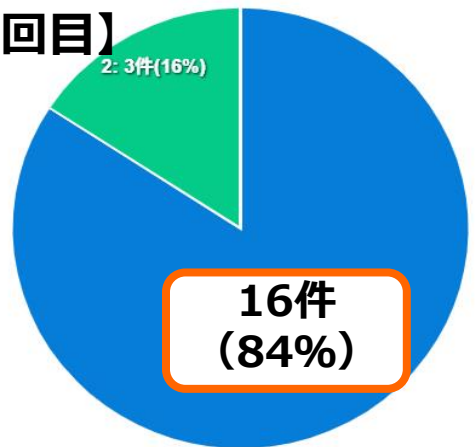
- ◆ 6回のトークセッションで官民それぞれの現状や課題を聞いてきた人たちが、**官民の立場を越えて**、皆で「こどもの未来」をテーマに**話をする**ことができた。
- ◆ 現実には、やるべきことやできないことがある中で、それを悲観することなく、「一緒にこどもの未来を見ていこう!」という目標を持ちながら、明るい未来を創造することができた。



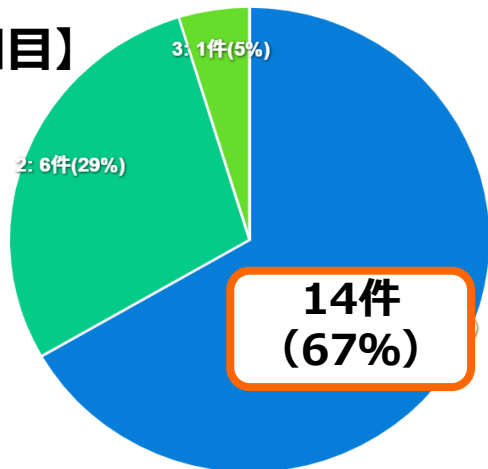
取組 1 官民参加トークセッションの実施① (アンケート結果)

▼ 「トークセッションの内容は、参考になりましたか？」

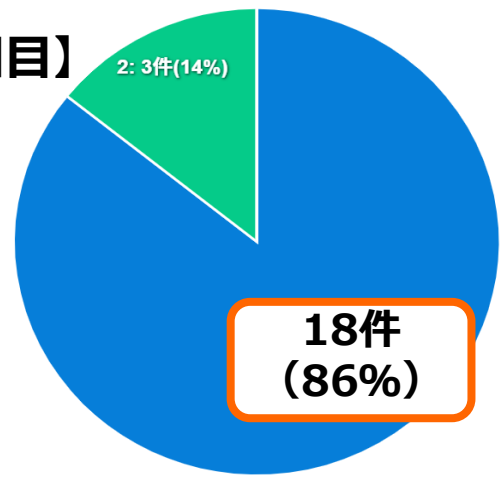
【1回目】



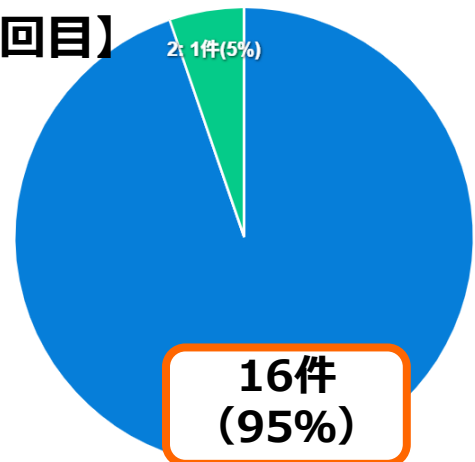
【2回目】



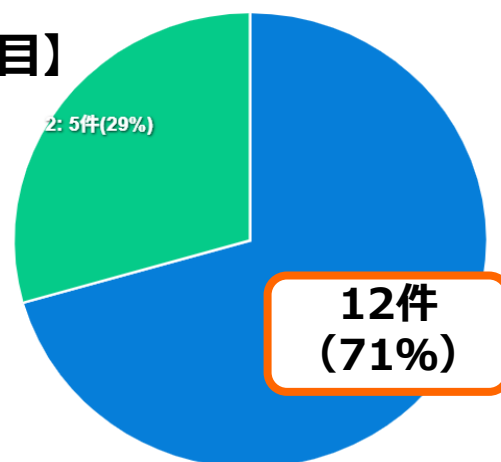
【3回目】



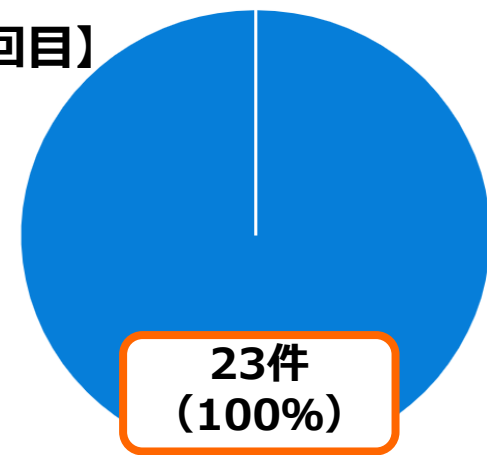
【4回目】



【5回目】



【6回目】



- 1. とても参考になった
- 2. やや参考になった
- 3. どちらともいえない
- 4. あまり参考にならなかった
- 5. 参考にならなかった

概ね7割以上の参加者が「とても参考になった」と回答しました！

取組 1 官民参加トークセッションの実施① (アンケート結果)

▼傍聴者アンケートの感想

【行政から】

- ◆ 官民がフラットな立場でトークをするという、聞いたことのないイベントが素晴らしく、学びになった。
- ◆ **民間の場所を訪れてみたい**と思いました。
- ◆ 民間団体の周知・連携・情報提供をどのようにしていくべきか考えていく必要があると感じた。
- ◆ まずは**互いの状況や考え方を知ることが大切**だと実感しました。
- ◆ **地域団体との連携は欠かせない**ものであり、部署の垣根を越えて共通する課題だと感じた。



【こまねり登録団体から】

- ◆ 官民が、出来ること、出来ないことを持ち寄って、**補い合える関係を築けたら、地域全体が居心地の良い居場所になっていくのではないか**と思った。
- ◆ 練馬区には多くの子ども支援の民間団体があり、それに行政がコミットしていることが素晴らしいと思った。
- ◆ 校長先生のお話から、**遠く感じていた先生たちが身近に感じられました**。
- ◆ 来場者に行政と民間がいて、かつアットホームな雰囲気、凄いなとワクワクしました。
- ◆ 課題をもっと取り上げて、**解決へのセッションを見てみたかった**です。



取組 1 官民参加トークセッションの実施②（映像撮影）

概要

- ◆ トークセッションの記録映像を作成
- ◆ トークセッション（計7回）を撮影、編集する

目的

- ◆ 行政と民間が、**対等で開かれた形で連携していることを示すこと**
- ◆ 官民共通の目的や課題を共有・確認するためのツールとすること

結果

- ◆ トークセッションでは、官民が建前で話すのではなく、**本音で課題を出し合うことを重視したため、撮影した映像は、こまねり登録団体および行政に限定して公開することとした。**
- ◆ 2・3年目の課題解決に向けて、映像を撮り、可視化することで、効果的に課題検討することができた。



撮影の様子

取組 2 練馬区の職員による「こまねり登録団体」への取材

目的

- ◆ 各部署や団体の今を調べ、官民の情報を集約し、こまねり登録団体の活動や区との協働事業を周知することで、**こまねりの認知度向上と、相談件数・利用者数の増加を図る**



どんぐり山プレーパーク 取材風景

概要

- ◆ **インタビュー**：練馬区職員がこまねり登録団体を訪問し、活動を取材
- ◆ **区民への周知**：練馬区ホームページに取材記事を掲載
- ◆ **練馬区職員への周知**：協働推進課が、職員掲示板に取材記事を掲載



結果

- ◆ 練馬区のホームページに**22団体が掲載**されました。



なゆたふらっと 取材風景

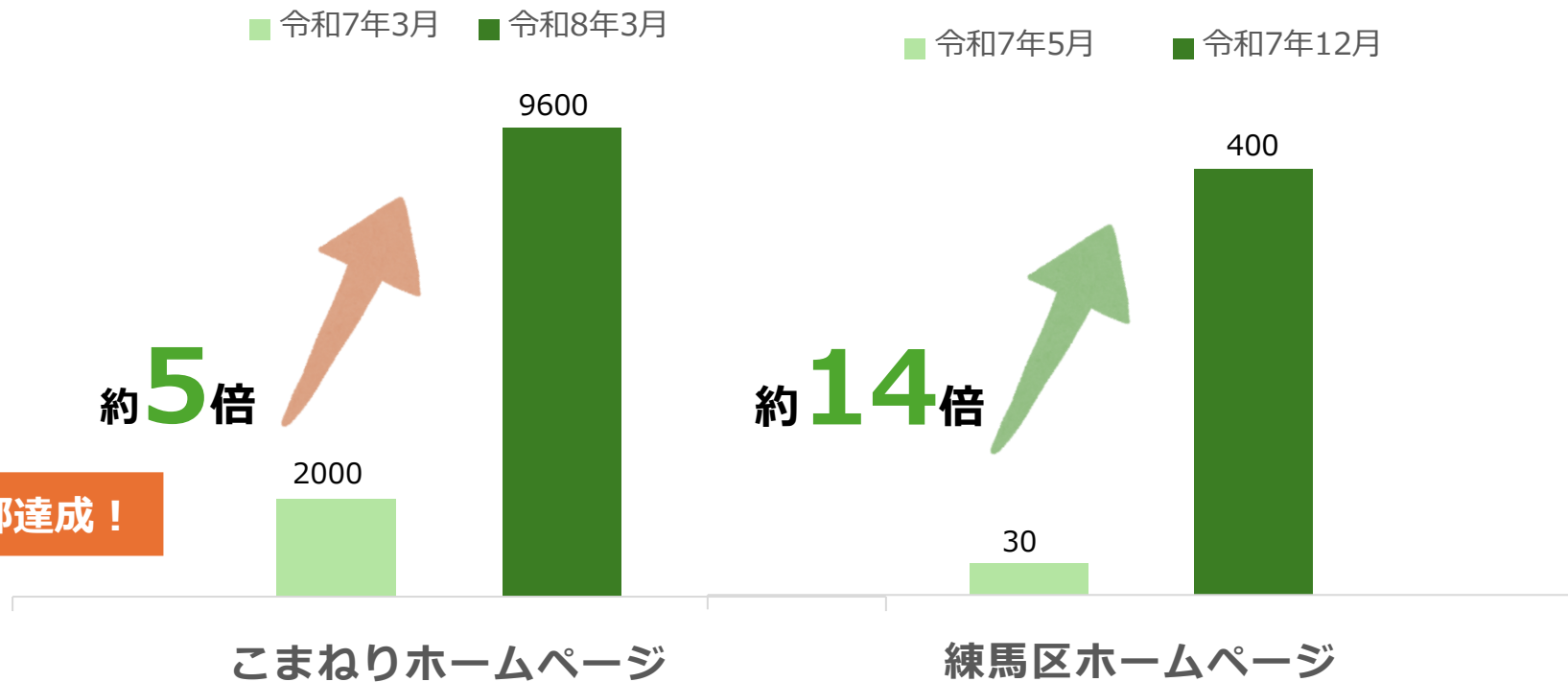
1年目の成果①

～情報の広がり～

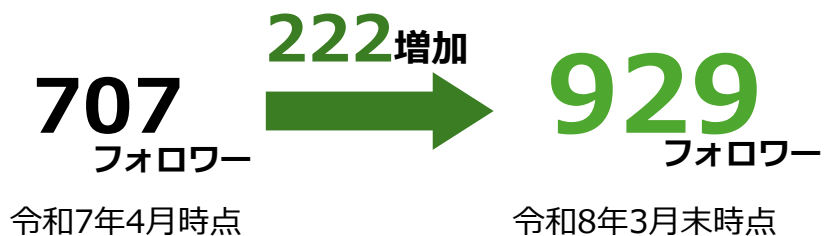
1年目は、こまねり登録団体の取材記事を、区HPに掲載したため、こまねりの認知度が向上し、情報の広がりにつながった。

ステップ3 確かな情報の発信 一部達成！

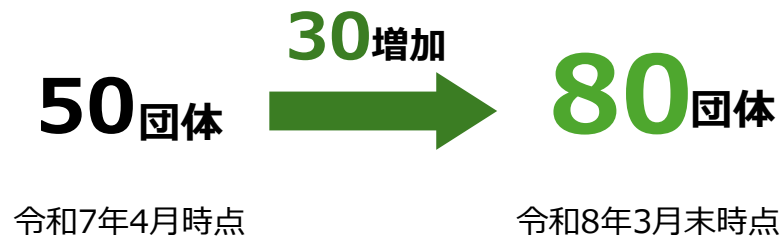
HP閲覧数の推移



Instagramフォロワー数



こまねり登録団体数



1年目の成果②

取組1【トークセッション実施】の成果

- ◆ 登壇をきっかけに、こまねり登録団体と行政の**新たな連携**が生まれた。

事例1)【居場所】児童館で臼を借りて、こまねり登録団体が餅つきを実施

事例2)【遊び】こまねり登録団体が児童館隣接公園でプレーパークを実施

- ◆ 顔の見える**関係性が築けた**ことで、区HPでこまねりの事業が紹介された。

事例3)学校教育支援センターのHPに掲載

- ◆ 本音で話せる場を設けたことで、**行政からの信頼性が高まった**。

事例4)練馬区フリースクール連携会議に、こまねり登録団体（3団体）が招待された。

- ◆ こまねり**登録団体同士のつながりが強化**され、次年度の運営体制が整備された。

【ステップ1】官民のつながり作り 達成！

事例1) 児童館で臼を借りて、餅つきをしている様子



事例2)児童館×プレーパークのコラボイベントの様子

取組2【区職員による「こまねり登録団体」への取材】の成果

- ◆ 区HPにて情報発信した結果、区民への認知度が向上した。

事例5)区HPを通じて情報を得た区民が、こまねり登録団体の活動に参加した。

- ◆ 庁内掲示板に記事を掲載した結果、区役所内での認知度が向上した。

【ステップ2】官民両者の情報把握 一部達成！



事例5)区HPを通じて、団体活動に参加

1年目の課題・課題を踏まえたアクション

課題 1 顔の見える関係性は構築できたが、具体的な行動に十分に結びついていない

計画 1 パンフレットの作成

- 官民両者の支援情報を掲載することで、お互いの関係性を可視化する

計画 2 意見交換会の実施

- 官民が共にパンフレットの案を出し意見を交わす

課題 2 パンフレット作成に向けて、民間団体および行政側の情報収集が必要

計画 3 こまねりによる、行政への取材

- パンフレットへ掲載する行政側の支援情報を収集する。

課題 3 当事者や保護者がどのような情報を必要としているか把握できていない

計画 4 保護者へのアンケート調査

- 保護者がどんな情報を必要としているかを把握し、パンフレットへ反映させる。

3年間の事業計画【修正版】

1年目

- 取組 1**
トークセッションの実施
- 取組 2**
こまねり登録団体への取材

2年目以降も継続 →

2年目

- 計画 1**
パンフレットの作成
- 計画 2**
意見交換会の実施
- 計画 3**
行政職員への取材
- 計画 4**
保護者へのアンケート実施

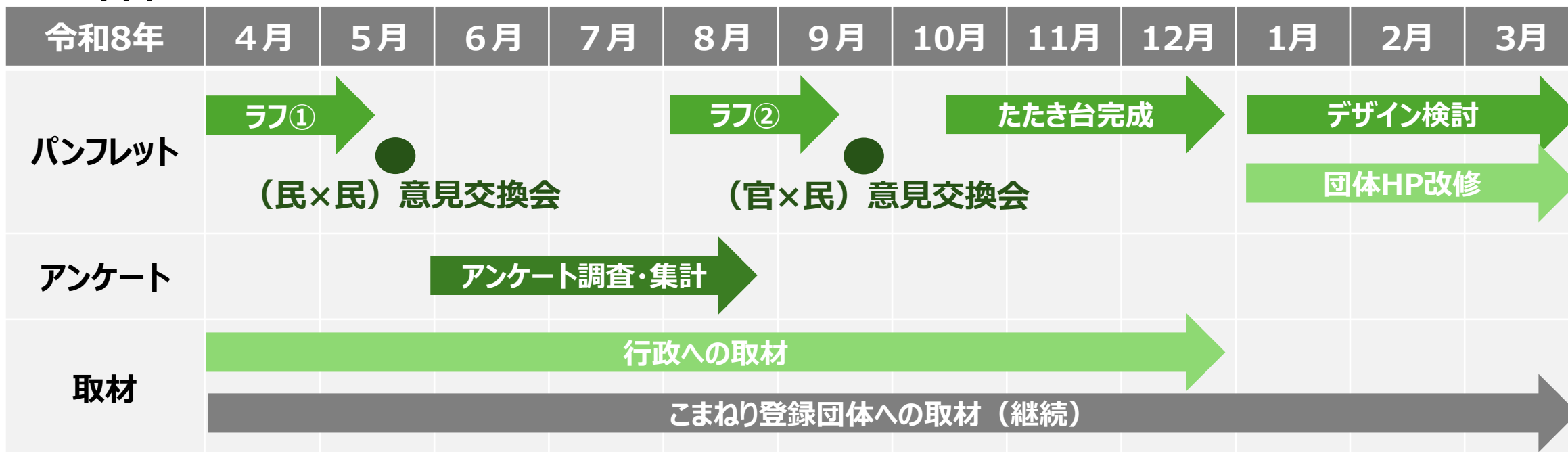
3年目

- ◆ パンフレットの配布
- ◆ シンポジウムの開催

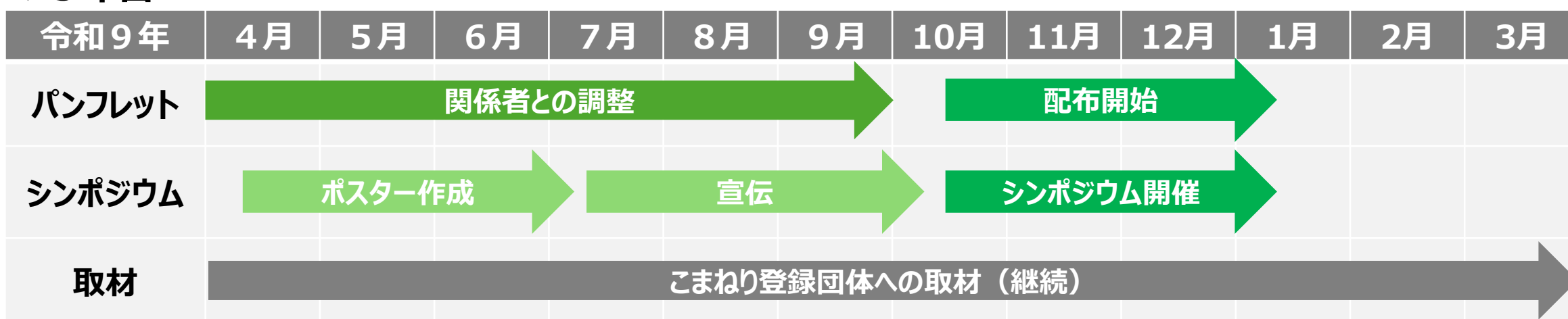


2年目以降のスケジュール

▼2年目



▼3年目



今後の展望（４年目以降）

全ての子どもが安心して過ごせる居場所に繋がり、
様々な体験や学びの機会が保障され、健やかな成長ができる社会を目指して…



官民で子どもの環境を良くするために
課題解決に向けた、対等な立場での協力体制を築いていきます。



- ◆ ねりま協働ラボを土台に、行政・学校・民間の三者が手を取り合えるような活動を推進します。
- ◆ 練馬区と継続的に**安全で対等な話し合い**を続け、練馬区における協働の基盤づくりを進めるとともに、互いの強み弱みを理解し合い、補い合えるような関係を作ります。
- ◆ 練馬区と連携しながら、保護者や子どもが課題を個人で抱え込むことなく、安心して相談できる体制の構築を模索します。
- ◆ この活動が練馬のモデル事業として継続していくために、行政・企業から資金を確保し、持続可能な運営体制を確立します。